

会議録（要旨）

【開催概要】

会 議 名 称	第24回泉大津市子ども・子育て会議
開 催 日 時	令和6年6月4日（火）午後1時00分から2時55分まで
開 催 場 所	泉大津市立総合福祉センター 第1会議室
出 席 委 員 （名簿順表記）	長瀬委員（会長）、久委員（副会長）、檀委員、秋元委員、植野委員、榎並委員、平委員、秦委員（計8名）
欠 席 委 員	大橋委員、谷委員、亀谷委員、納谷委員
事 務 局	藤原健康こども部長、鍋谷教育部長、森口福祉政策課長、谷中健康づくり課長、里見こども育成課長、向井子育て応援課長、深澤障がい福祉課長、藤谷指導課長、大内こども政策課長、大和スポーツ青少年課長、堀内こども政策課長補佐、細見こども育成課長補佐、永本子育て応援課長補佐、瀧川こども育成課長補佐、青山スポーツ青少年課長補佐、向井誠風中学校校長、村田こども政策課統括主査、（株）ぎょうせい3名
会 議 次 第	1. 開会 2. 案件 （1）子ども・子育て会議委員の改選について （2）ニーズ調査報告 （3）こども計画策定に係る追加アンケート調査及びインタビューの実施について 3. 閉会
配 付 資 料	【配付資料】 資料1-1 泉大津市子ども・子育て会議委員改選について 資料1-2 泉大津市子ども・子育て会議委員一覧 資料2-1 子ども・子育て支援に関するニーズ調査報告書 資料2-2 ニーズ調査単純集計 資料3-1 追加アンケートの趣旨 資料3-2 小中学生こども計画アンケート 資料3-3 子ども・若者育成支援に関するアンケート調査 資料4 小学生・中学生インタビュー実施要領
公 開 / 非 公 開	公開
傍 聴 者	0名
その他の必要な事項	なし

【議事要旨】

	<p>1. 開会</p> <ul style="list-style-type: none">・藤原健康こども部長よりあいさつ・会議成立要件の確認（委員 12 名中 8 名が出席のため成立） <p>2. 案件</p> <p>(1) 子ども・子育て会議委員の改選について</p>
事務局	●資料 1-1、1-2 に基づき、委員の改選について報告。
会長	◇案件（1）について、事務局から説明がありました。何かご質問はありますか。なければ次の案件へ進めます。
	(2) ニーズ調査報告
会長	◇事務局は案件（2）について説明してください。
事務局	●資料 2-1、2-2 に基づき、事務局から説明。
会長	◇案件（2）について、事務局から説明がありました。何かご質問はありますか。
委員	◇臨海の東港公園に認定こども園ができると聞いていますが、地域の声として交通量が多い、大型のトラックが通ることによって強い横風が吹いて危ない、という意見をよく聞きます。子どもの交通事故は意外な場所で起こるものです。そのような場所に認定こども園ができつつあるのか、どうなのかということについて、お話を聞かせください。
事務局	●東港公園内の認定こども園については、先日、プロポーザル審査が終わり、事業者が決定してきている段階です。臨海線に面している公園の中に、認定こども園を整備するということとなりますので、ご指摘のように騒音や振動、排気ガスについても、近隣住民の方への説明の際にもご意見を頂いておりました。そういった問題も含めて、今後、建設の際にそこを解消できるようプロポーザルの中でも提案していただいております。建て方や木の植え方などで懸念点を解消していきたいと考えています。
委員	◇資料 2-1 の 16 ページの「保育園、幼稚園、認定こども園など通園の有無」で、「全く利用していない」という割合が 35.1%あります。これは幼稚園の利用年齢に達する 0、1、2 歳児がほとんどだからだと思いますが、3、4、5 歳児の年齢層ではどのくらい「全く利用していない」という割合があるか、教えてください。
事務局	●資料 2-2 の 11 ページの単純集計表としては、3 から 5 歳児で「全く利用していない」のは 2 名となっております。
委員	◇3 から 5 歳児の「全く利用していない」2 名は、小学校入学までにどこかの就学前施設に所属する方がスムーズな就学に繋がると思いますが、実際に小学校入学までに入ずれにも所属せずに入學する子どもはいらっしゃるのでしょうか。

事務局	●現時点で事務局の方で、把握しておりませんので、確認後、報告します。
委員	◇資料2-1の33ページのショートステイの利用意向について、「保護者や家族の育児疲れ・不安のために利用したい」という回答数が多いことに驚いています。それだけ育児負担が高まっているのかなと考えます。子どものショートステイといえば、虐待の一時保護など福祉的利用をイメージしていましたが、もっと気軽に利用できるようアナウンスなども必要かなと思いました。
副会長	◇こちらのアンケートは二つの使い方があると思うんですね。一つは需要の予測のための資料、もう一つは現状の子育て環境の把握だと思います。 アンケートで全体傾向だけ見てしまうと、少数ですが非常に困っている方に目線が行きにくくなります。そちらの方も、きちんとアンケートの中から拾われていくというのがとても重要だと思います。それに関連して、アンケートですが、単純集計の他にもクロス集計や解析を行うことで、見えてくる傾向があるかもしれません。より深い分析を行う予定はあるのでしょうか。また今回ネット回答も受け、ネットで情報収集しているという回答が就学前の方で多くあったことから、回答者がネット世代に変わってきているという傾向がつかめると思います。同じ保護者であっても世代が異なるとネットの方に移行してきているのではないのでしょうか。ネットでの回答、紙での回答でどう傾向が違うのか、このあたりを踏まえ、より深い分析は続けられるのでしょうか。
事務局	●今後の計画策定に向けて、例えば家族類型ごとの分析も踏まえ対応予定です。ネットでの回答者、紙での回答者の回答傾向の検証は必要と思いますので、全部分析できるわけではないですが、キーとなるところは検討したいと思います。
副会長	◇ありがとうございます。市役所の方とぎょうせいの方で、知恵を働かせて分析していただければと思います。 私は家族がニュージーランドにいますが、ニュージーランドではパートやフルタイムといった雇用形態で権利が異なるといったことはありません。一方日本では、そのような雇用形態で分類しないと集計しにくく、またそれは労働政策と子育て支援が密接な関係であるという意味合いにつながるものと思います。
会長	◇副委員長がおっしゃられたように、全体傾向を掴んで、市全体の方向性を決めることも行政の大事な役割と思いますが、同時に本当に必要な人に必要な施策を届けていくのも大事だと思います。少数者の意見を聴くことも大事だと思います。
委員	◇資料2-1 5ページの「お子さんを預かってもらえる人はいますか」という問い、「いずれもない」と答えた方が2割ぐらいおられることが気になります。市の受け皿としては、ファミリーサポートセンター事業が活用できるのではないかと思います。他に何かありますでしょうか。
事務局	●ファミリーサポートセンター事業は大きな役割であり、依頼会員とともに提供会員増加に向けて働きかけを行っています。もうひとつ、預けるという場ではありませんが、

おやこ広場などは親同士、子同士のつながりの場になると考えています。

事務局

●緊急時という場合であれば、園所での一時預かりや病児保育などもあります。

委員

◇ファミリーサポートセンター事業は、緊急時の利用はできますか。

事務局

●ファミリーサポートセンター事業につきましては、事前に講習会を受講し、提供会員と依頼会員で顔合わせを行う必要があります。そこが済んでおりましたら、比較的、緊急時に利用することも可能と思われます。

委員

◇それ以外では緊急時の預かり場所はあまりないでしょうか。

事務局

●緊急となりますと、やはりファミリーサポートセンターが該当する事業になりますので、市としてはそこを充実させようと取り組んでいるところでございます。

委員

◇親の立場としては、緊急時に預かり先があるというのは安心感につながりますし、おやこ広場とかでお友達を作る場を作っていただけなのはありがたいなと思います。

事務局

●補足ですが、緊急一時預かり・一時預かりは登録をいただければ、利用していただけるサービスになりますので、そういった選択肢を利用していただくのも一つの支援策かなと思います。現状、保育士不足もあり、希望する方みなさんをお預かりできているわけではありませんが、アルザの保育園でも一時預かりを始めましたし、昨年度2園小規模保育園が開園し、そちらで1, 2歳児の一時預かりも始めて、増やしていております。現状としてはこのようなかたちになります。

委員

◇そういった施策が保護者に届くよう、ファミリーサポートセンターなども認知されていない方もいると思いますので、今月の広報誌に載っていたように、必要な方へ情報が届くようお願いしたいと思います。

委員長

◇八割方の方は頼るところがあると書かれていますが、そうではない方に、いざという時にこういった情報を届けていただくようお願いしたいと思います。

委員

◇今回の調査自体は小学生と就学前児童が対象だと思いますが、最後の自由意見、資料2-1 44 ページ「中学校について」というところにもご意見があるように、中学校にあがると小学校との差があまりにも大きく、子育ての環境やそれぞれの子どもへのサポートなど、不安に感じている保護者も多いと思います。わざわざ小学生向けのアンケートに書くくらいなので、伝えたいことがあるのだと思いますし、小学校高学年や中学生の保護者に対しても、今回のような調査が届くと良いと思います。

事務局

●今回のアンケート調査は小学生と就学前児童となっており、中学生の保護者のご意見は伺えておりませんが、ここに書かれているように自由意見は共有し、施策に反映していきたいと考えております。直接中学生の保護者の声を聴く形ではないのですが、のちほど説明しますが、中学生の声も聴かせていただく予定です。併せて実施していきたいと考えております。

副会長	◇資料2-1の2ページの住まいの地区を聞く問いは、回答者属性を確認するための設問ですが、「わからない」と答えた方が11.4%おられます。当然、就学前の親御さんが多いと思います。行政の政策事業や地域の活動は小学校区単位であることが多いものの、就学前の親御さんからすると、自分の小学校区への意識がないというです。そのギャップを、今後様々な施策をする上で、意識していただければと思います。
会長	◇そのことで言いますと、当該の小学校区以外の保育施設に通っている保護者さんはなお、学校区への意識が薄いと思われます。小学校就学前は自身の校区を意識する機会がない方もおられますので、小学校区単位で何かされる時は、そういった方にきちんと情報等が届くようにしていただければと思います。 その他何かご質問はありますか。なければ案件3へ進めます。
会長	◇事務局は案件（3）について説明してください。
事務局	●資料3-1、3-2、3-3、4に基づき、事務局から説明。
会長	◇案件（3）について、事務局から説明がありました。私からの質問ですが、小中学生はタブレットで回答とのことですが、それは学校単位でお願いをして学校経由で実施という形でしょうか。
事務局	●各学校様をお願いをして、URLを配信していただき、回答していただく予定です。
会長	◇今までのアンケートは、対象者を無作為抽出していたと思いますが、今回は市内の公立小・中学校に在籍している方だけ、例えば市外の学校に通っている児童は対象にはならないという認識で合っていますでしょうか。
事務局	●はい、泉大津市の公立小中学校に通っている方を対象者としております。
会長	◇ありがとうございます。少数者ではありますが、無作為抽出とは形が変わりますので、確認させていただきました。
副会長	◇計画には、小中学生へのインタビューも予定されています。私も小中学生のまちづくり講座を担当していますが、小学生からインタビューを引き出すのは、ふざける子どももあり、なかなか難しいこともあると思います。株式会社ぎょうせいさんは、他市でこういったインタビューのご経験はおありでしょうか。
事務局	●こどもたち目線でインタビューできるよう努めます。
副会長	◇ひとつのテクニックみたいなものが必要かなと思いますので、そのあたりうまく引き出してほしいなと思います。「なりたい大人」というテーマの最初の口火の切り方はどうされるのでしょうか。
事務局	●子どもたちの状況を見て、まずは子どもたちがやっていることや話していることを見て、そこから加わっていくイメージで考えております。

副会長	◇インタビューはスタートが大事だと思いますので、直接訊くのではなく、例えば「まわりに素敵な大人っていますか？」といった風に、慎重にシナリオを書いてもらってやっていただければ嬉しいです。
委員	◇アンケートの内容についてですが、資料3-2 問23のスマートフォンなどの利用時間について、上限が3時間となっていますが、現実としては、小学校高学年でスマートフォンやゲーム機を5時間以上利用しているなんてことはよくあります。3時間を上限としてしまうと、聞きたいことが聞けないのではないかと思います。いかがでしょうか。
事務局	●上限時間を修正したいと思います。
会長	◇ほかの調査ですと、あえて「平日」と設問につけて、アンケートをとっているところもありますので、調査の仕方・項目を検討していただいてもいいかもしれません。
委員	◇アンケートの表紙の「ご協力のお願い」について、踏み込んだ内容のアンケートに関わらず、お願いの部分は簡潔な内容になっているように思えます。先程のニーズ調査のアンケートではしっかりと趣旨を書いていたので、比較すると非常に短い内容に思えます。この内容ですと、子どもたちが自分たちの意見が本当に施策に反映されるといふことが伝わりづらいなと感じました。いかがでしょうか。
事務局	●はい、問いにたどり着くまでが長いと回答していただけないかと思い、短くしたのですが、簡潔にしすぎたと思いますので、少し変えさせていただきます。
委員	◇小中学生の回答が学校配布のタブレットということなので、個人の特定ができるかと思うのですが、内容的に支援が必要なケースには、こども政策課から教育委員会へつないでいただくことはできるのでしょうか。
事務局	●タブレットでの回答を想定していますが、配布するURLリンクに入っただけの回答のため、個人の特定は困難です。また個人を特定しないとアンケートに明記し、子どもたちにも答えやすい環境で回答してもらおうと考えています。ただ子どもさんから直接的にSOSがあれば、当然対応させていただきます。
会長	◇こういう機会にしか発信できないお子さんのことも、救い上げていただきたいです。
副会長	◇例えば最後のところにも、悩んでいたら連絡できるホットラインがあるというような情報を記載していただくと、困ったらここに繋がるんだと実感できることにもなります。ぜひ、そういうところの情報も記載していただければと思います。
会長	◇こういう機会にしか発信できないお子さんのことも、救い上げていただきたいです
会長	◇資料3-2 問5の設問について「勉強のこと」「自分の顔のこと」「自分の体のこと」と「運動がにがてなこと」と表記を変えているのは何か意図があるのでしょうか。勉強のことは、苦手でなくても幅広くということでしょうか。

事務局	●そうですね。勉強のことは、幅広くという意図でした。 「自分の顔のこと」「自分の体のこと」については、何か問題ありますでしょうか。
会長	◇「自分の顔のこと」「自分の体のこと」とすると、健康や病気についてのことと、美醜についてのこと両方はいつてくると思いますので、「容姿のこと」などと記載したほうが良いかと思います。 また表現の件については、「家がまずしい」の表現を検討していただければと思います。「経済的にきびしい」とか、ほかの表現も検討していただければと思います。 子どもよっては辛く、重い表現に聞こえるかと思います。
委員	◇実際に困っているけれど、声を上げられない子どもたちの声を拾えるようにしてほしいと考えています。例えば「相談したい時はこちらから連絡してもいいですか」などの設問を入れて、直接的にコンタクトが取れるようにする仕組みを入れるのはどうでしょうか。
事務局	●あくまで匿名のアンケートになりますので、先ほど副会長がおっしゃっていただいたように、悩んでいたらこちらに相談してねという記載はできますが、行政からアプローチは考えておりませんので、ご了承ください。
委員	◇ありがとうございます。今後もし、またアンケート等される際にご検討していただければと思います。
会長	◇アンケート項目の中に「ほかの人に相談できる場所があれば、相談してみたいですか」と記載するはできますでしょうか。こちらからアプローチするというのではなく、そういう場があったら相談したいかということは問えるかなと思いました。
事務局	●具体的にどうすればよいのか、事務局内で検討させていただきます。
委員	◇問いの順番についてですが、最初の方に深い質問が出てきているので、簡単に答えられる問いを先に並べ、深い質問を最後の方にした方が答えやすいと思いました。そのあたりの順番をかえた方が良いのではと思います。
事務局	●検討させていただきます。
会長	◇今の質問に関してですと、問8、9など生活状況に関するものを前に持ってきて、なやみや家族のケアについての質問を後にするなどしても良いかもしれません。このあたりの順番も含めてご検討ください。
副会長	◇アンケートの場合は、事実を訊いて、後から考えを訊くと進めるのが良いかと思うので、そういった順番で進めていただければと思います。このアンケートの目的は「こどもの貧困対策推進計画に生かす」というところだと思うのですが、全体的に質問の内容がぶれていないでしょうか。これを訊いて計画にどう反映できるのかとか、他の訊き方をした方が良いのではないかなど、質問を精査していただければと思います。具体的には、資料3-2 2ページの間10で「ふだん、ほぼ同じ時間にねていますか」という問がありますが、同じ時間に寝ていても毎日遅い時間だと意味

	<p>がないと思います。この間ですと具体的な就寝時間を訊く方がいいと思います。何をあぶりだしたいのかということを含めて問の中身を再度チェックしていただければと思います。</p>
会長	<p>◇問の中身含めて、表記や順番など精査していただければと思います。</p>
委員	<p>◇資料3-2 問7の「悩みがあるとき、相談できる人はだれですか」の回答選択肢の1番目に「親」を持ってくると、両親と仲が良くない子どもには答えにくくなってしまったと思いました。もう少し現状の選択肢をばらけさせるなどあれば、ややこしいお子さんには答えやすいかもしれません。</p>
会長	<p>◇いくつかご意見等いただきましたので、事務局で持ち帰っていただいて、検討していただければと思います。 それでは本日の案件と報告は以上になります。</p>
事務局	<p>●本日の内容を踏まえ、修正資料を後日郵送またはメールで委員の皆様へ送付いたします。よろしくお願いいたします。 次回子ども・子育て会議は9、10月頃に、今回のアンケート結果を踏まえた計画骨子案についてご検討をいただく予定です。 これもちまして、第24回泉大津市子ども・子育て会議を終了いたします。ありがとうございました。</p> <p>3. 閉会</p> <p style="text-align: right;">以上</p>